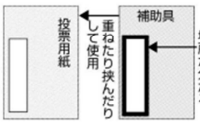
ワークシート 「深める・広める」⑮

年　組　番号(　　)　名前

投票用紙 補助具で分かる

障害者に優しい選挙を

補助具の使い方を手で示す渡辺さん



「政見放送には字幕や手話通訳者を付けてほしい」と訴える山田さん

参院選が公示され候補者が舌戦を展開する中、聴覚や視覚に障害がある人たちから選挙で投票しやすい環境を望む声が上がっている。演説が聞きにくかったり、投票用紙が見えづらかったりするからだ。障害者らの声を受け、投票所を運営する自治体側も障害者に配慮した取り組みを進めている。

「政見放送には字幕や手話通訳者を付けてほしい」。県聴覚障害者情報支援センター所長で、自身も聴覚に障害がある山田尚人さん(44)は訴える。総務省によると、政見放送に字幕や通訳者を付けるかは政党や候補者の判断によるという。

「字幕があれば、障害の有無にかかわらず誰もが放送内容を知ることができる。結果としてどんな人にも役立つものになる」と話す。

街頭演説も同様だ。手話通訳者を付ける候補者は増えているが、山田さんはまだ少ないと感じている。「手話通訳がないと演説の内容が分からない。手話や字幕で候補者本人の言葉を直接知ることが重要だ」

視覚障害者は投票所で不自由を感じるときがある。

「投票用紙の枠がぼやけて見えにくく、枠内に候補者名を書くことが難しい」。県視覚障がい者福祉協会長の渡辺寛子さん(56)は視覚障害者の気持ちを代弁する。自身も視覚に障害がある渡辺さんは「投票用紙の枠の厚みで書く場所が分かるなど、障害の有用の『補助具』があれば、弱視の人が記入しやすい」と続け、補助具の全県的な導入を願う。

同協会などは1日、県庁と福島市役所を訪れ、点字投票者のための点字器の更新や選挙公報の音声版の作成などを要請した。渡辺さんは「時間の都合上、今回の参院選での対応が難しいことは理解している。今後、できる範囲で対応を進めてもらいたい」と求めている。

自治体側も動き出している。福島市は2023年の県議選から、老眼鏡や補助具など障害者や目の不自由な高齢者向けの独自支援を実施。昨年の衆院選ではイラストや文字を指さして支援を求めることができる「コミュニケーションボード」を初めて投票所に設置した。今回の参院選でも全投票所で導入していて、市選管は「困り事があれば有効に活用してもらいたい。(コミュニケーションボードを含めた)支援できる環境を整えているので、安心して投票所に来てほしい」と呼びかける。

郡山市も今年4月の市長選で、聴覚障害者らの円滑な投票を支援するため「耳マーク」や「筆談マーク」などを期日前を含め全投票所に設置した。今後の選挙でも取り組みを継続するという。市選管は「誰もが安心して投票できる環境づくりに取り組む」としている。

政見放送 字幕、手話付けて

▲ 7月5日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

誰もが安心して投票に行ける環境を整えていくことが大事ですね。